

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 あさしな保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。

「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	○「佐久市営保育園」全体の保育理念・保育目標及び「あさしな保育園」独自の保育理念・保育目標・保育園の願いが明文化され、保育過程が編成されていました。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○園舎は、木材を使用し温かみを感じられ、また廊下も広々とした設計になっており、雨天でも園内で伸び伸び活動できる作りとなっていました。</p> <p>○廊下の各コーナーでは遊具等が置かれ、それを通して異年齢の交流も自然に発生し、自由に創造的に遊べる環境が整えられていました。</p> <p>○未満児室には床暖房及びエアコンが設置され、また入室は上履きなど履物を脱いでというように保健衛生にも配慮がなされていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○佐久市公立保育園「保育園職員としての心構え」3. 保育園職員としての姿勢の中に、「気づかい」をすることが心の温かい保育にも表れるので、些細なことでも「気づかい」する。と明記されていました。</p> <p>○家庭環境が複雑で、指しゃぶりや唇をかんだりなどする行動を示す子どもに対して、抱っこしたりと一人ひとりの子どもの状況に応じた支援がなされていました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○未満児保育では、着脱などの生活習慣は見守りながら要所所で支援し、自分で行えたという達成感や充実感を大切にしていました。</p> <p>○また、積極的でない子どもに対しても、周りの雰囲気から自分もやってみようという意欲を高めるような支援がなされていました。</p> <p>○基本的な生活習慣については、子どもの発達段階に応じ、無理なく自然に身につけられるよう支援がなされていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○子どもたちが興味のもてるような遊具等を整備したり、自分から参加してみたいと思えるような題材を工夫したりと、子どもの意欲を大切に支援がなされていました。</p> <p>○広々とした廊下のコーナーに、子どもたちが考えたお店屋さんや秘密基地のようなものが常設され、創造しながら遊べる環境が設定されていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○0歳児が安心して過ごせるよう、保護者と連携を取りながらの保育が進められていました。</p> <p>○感覚的な遊びも重視し、手作りの音を楽しむおもちゃで遊んだり、遊具にも工夫がされていました。</p> <p>○職員は子どもの動きや表情等から快不快等の情報を得、心地よい環境で過ごせるよう配慮がなされていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○シールを剥がしたり貼ったりの活動は、ただ遊ぶだけでなく作品として仕上げの活動に繋げていました。</p> <p>○身体を動かす動的な活動と、絵本を読んだりする静的な活動をバランスよく取り入れた保育が実践されていました。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○集団生活の中で競争意識を持ったり、協調性を育んだり、さまざまな経験を積めるような取り組みがされていました。</p> <p>○年長児は、自分のことができる、友だちのかかわりを持てる活動、自分で解決する方法、自分の想いを伝える仕方などを意識した保育実践がなされていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○”育み相談”が入り、専門の先生がその子の様子を観察し、保育についてのアドバイスを頂いたり、発達支援研究会等研修会に参加したりと、研修体制も充実し、発達に応じた保育実践がなされていました。</p> <p>○クラスの子どもまたは、障害の有無に関係なく、その子が出来ない所や困っている時は、ごく自然な形で支援している姿が見られました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>○ブロック、ぬり絵、ままごとなどの各コーナーが設けられ、園児は好きな所に行ったり、それぞれが思い思いに、友だちや年長・年下の子と一緒に、くつろいで過ごせるよう環境を整備していました。</p> <p>○お迎えの保護者には連絡ノートや口頭などにより、引き継いだ担任からの伝言などを担当職員が伝えていました。</p> <p>○怪我やトラブルなど大きなアクシデントは、担任が直接伝えるようにしてました。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子ども生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○小学校とは年長児が運動会に参加したり、招待され学校に行く。また、園に来るなどの交流が行われていました。</p> <p>○保育園・小学校の連携会議等が開催され、園から職員が小学校に出向いたりし、入学予定の子ども情報を共有するなど行われていました。</p> <p>○配慮が必要な子どもについては、小学校の職員ときめ細かな情報交換がなされてきました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもに関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 □ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○「保健だより」や「ごろべだより」が発刊され、流行っている病気やこれから出やすい病気についての症状や対処法を紹介し注意を促していました。</p> <p>○また、上記について保護アンケートの中に、その内容が「大変参考になります」という記述もありました。</p> <p>○園児が具合悪い時は、保護者などから状態をよく確認し、クラス担任で話し合い情報を共有していました。</p> <p>○SIDSに関しては、プレチェックを5分間隔で実施し、チェック表に記載していました。</p> <p>○保護者に対し、SIDSに関する必要な情報提供を望みます。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○歯科、内科、眼科検診を実施し結果を保護者へ伝えていました。</p> <p>○虫歯については、必ずその年度に通院してもらい、その結果を提出して頂いていました。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 □ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギー対応マニュアルが整備され、事前対応</p> <p>1) 医師による食事の指示書・アレルギー項目チェック表を出していただく。献立表の成分表の除去する成分にチェックをしてもらい毎月提出して頂く。</p> <p>2) 全職員で情報を共有する。と記載されており、そのように実践していることが確認できました。</p> <p>○配膳間違えが無いよう、配膳時から普通食と区別するために、印をつけたり食事中に追加する食品についても同様の取扱をし、また下膳時や洗い物の際も最初に洗うなどの細かな配慮が見られました。</p> <p>○職員の事業評価では82～85の項目については、全職員ができていますと回答していましたが、86、87については3割強の職員ができてない、知らないと回答しています。アレルギー疾患についての研修の充実を望みます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○未満児については、未満児参観で試食も行い食についての理解を深めていました。</p> <p>○食育として、今食べている物の栄養素を分かりやすく教えるなどし、野菜に興味を持たせたり関心を深める工夫がされていました。</p> <p>○残さないで食べれるよう、それぞれの園児に応じた量の盛り付けにしています。また、お代わりも園児の希望でしていました。</p> <p>○年長児は一人1バケツに、地元の特産米（ごろうべ米）の苗を農家から頂き栽培管理し、秋に刈り取り園児たちが精米までし、収穫祭を園全体で行っていました。</p> <p>○食育に関する興味を高める取り組みが確認できました。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子ども食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○園では、味噌汁に花形に切ったニンジンも一緒に入れ、それが器に入っていると「今日は当たり」と、皆が楽しみながら給食を頂き、自然とどの野菜も食べれるよう園全体で取り組んでいる様子が伺えました。</p> <p>○実際、給食時に園児に好きな食べ物とは聞くと「ピーマン」「ニンジン」等と答えてくれました。</p> <p>○調理員や栄養士等は時々、食事の様子を見に来たり、園児に直接聞いたリアンケートを取ったりし献立や調理に反映させていました。</p> <p>○クリスマス会や誕生会などでは地元の名産（佐久鯉甘露煮等）を提供していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるように支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○日々の園での生活や家庭の様子は、連絡ノートを活用し情報を共有すると共に、送迎時に保護者とコミュニケーションを積極的に行い、信頼関係の構築を図っていました。</p> <p>○年間計画で、家庭訪問や保育参観などが計画され実施されていました。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○月1回発行のクラスだより（りす組みだより、ごろべえだより等）や、保健だよりを配信し、情報を提供する事で保護者に安心して預けられる保育に繋がっていました。</p> <p>○保護者の悩み相談ごとについては、クラスの先生同士で話し合い、担任が保護者の相談に対応していました。</p> <p>○クラスだよりで、ノートなどからの悩み相談事を、テーマ別（食べ物編・排泄編等）に編集し情報を提供していました。</p> <p>○保護者アンケート自由回答に、「クラスだよりは子育てのアイデアをまとめた内容や、他のご家庭でされている工夫などの情報もあり悩みなどが共有でき嬉しい」という内容の回答もありました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 □ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 □ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○児童虐待調査シート（長野県児童相談所版）を使用し虐待のチェックを行う体制が確認できました。</p> <p>○チェック場面は、日々の送迎時や着脱・おむつ交換時等において、職員が子どもの身体・衛生面の状況や親の変化に気を配り、外傷の有無や衣服・清潔の状況の観察を通して行われていました。</p> <p>○虐待についての職員研修を、児童虐待調査シート等を使い実施することを望みます。</p>
	3 保育 の 質 の 向 上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 □ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○その日の保育実践を記録し、一日の振り返りをクラスの先生同士で行い、より良い保育に向けていました。</p> <p>○自己評価は、保育士自身の目標を園長に提出し、園長と直接それについて話しあいアドバイスを頂いたり、自身の振り返りをしていました。</p> <p>○自己評価をうまく活用し、職員同士が互いの学び合いや意識の向上に繋げることを望みます。</p>